

(様式)

令和5年度 学校評価書

服織中グループ 静岡市立南藁科小学校

	大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から (小中一貫教育推進委員会等)	改善策 (来年度の目標設定、具体的な取組目標)
静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動	【視点1】 学校の教育目標を グループ校で共有する	自ら学び、共に高め合う 児童生徒の育成	① 自ら学び、共に高め合う児童生徒の育成を目指した教育活動に取り組んでいる。 学習指導・特別活動・生徒指導等全ての活動で、子ども達が友だちと協力しながら自ら進んで活動に取り組めるように意識してきたことで、子どもたちの自主性や協働意識が高まってきた。授業では自己選択学習が定着し、行事等の特別活動でも自分たちで考えて決めるという意識が定着してきた。アンケート結果は、保護者・職員と同じく児童の肯定的な回答も80%以上であり、子どもたち自身も主体的に活動していると感じている。	A	【学校教育目標について】 ・自己肯定感を伸ばすには、褒めてあげることが大事。その子をもっていい良いところを見つけてあげることによって輝くことができる。 ・今は人からどう思われるか気にする子が多い。周りから認められても自信がもてない子が多いので、自信をつけさせる指導が大切。 ・自分ができないことはやらないという子もいるので、結果ではなく過程を認めて褒めていくことが大事。 【学習について】 ・自分で学習を進めることが全員できていることが素晴らしい。 ・自分の推薦する図書を紹介する学習など、授業の内容や課題が工夫されていて良い。 【特別活動・生徒指導子について】 ・放課後、高学年の子が低学年と遊ぶとき、低学年の子も楽しめるようにルールを変えてあげたり、けんかをしても自分たちで解決したりしている姿が見られてとても良い。 ・異学年の子とも仲良くしている姿が見られる。 ・子どもたちが自由にグループを決めるとき、一人になってしまう子もいる。そういった子がいるということを気にかけてほしい。 【健康面・体力面について】 ・スマートフォンの利用や、YouTubeの視聴など家庭での使用が多すぎるのは幼稚園でも問題になっている。外でたくさん遊んでほしい。 ・「メディアについて考える日」などの取り組みはとても良い。そういった日があることで、家庭でもメディアの使い方について考えるきっかけになる。 ・ノーメディアデーを復活させるのも一つの手立てとしてありではないか。 【他校・地域との交流について】 ・こども園の園児と本校の児童の交流はとても良かった。児童が園児の出し物を本気で楽しみ、良いところを具体的に示して褒めてくれたのでありがたかった。 ・子育てサロンの訪問では、相手のことを考えて内容を考えることができていた。 【環境整備・業務改善について】 ・PTAの環境整備活動はとても良かった。年2回くらいやりたい。子どもも一緒にできるとよい。 ・PTAの夜の会合は負担が多いが、集まることでいろいろな意見が出たり、保護者同士が顔見知りになったりするメリットもある。 ・学校からのお便りをペーパーレス化するのはとても良い。確実に家庭に届く、文書を紛失するともなくいつでも確認できるというメリットがある。どんどん推進して行ってほしい。	今年度の取り組みを継続していく。子どもたちが自主的に活動に取り組める場面をよりいっそう増やし、子ども主体の教育活動を推進していく。
			② 子ども達は、自らの学びを自己調整したり、主体的に友だちと関わったりしながら、学びを深めている 自由進度学習を取り入れることで、学習の方法や内容を自分で選択、調整する姿が増えた。めあてと振り返りを書く時間を設けることで、見通しをもって学習に取り組むことができた。また、分からないことをいつでも聞くことができる環境づくりも行ったことで、主体的に友だちと関わる姿も増えてきた。しかしまだ学習の定着や、学びを深めるという点で課題がある。	B		自己選択学習を引き続き継続していく。自己選択学習を行う環境を整え、主体的に学びに向かう姿が増えてきた。来年度は学習の定着度や深まりの面での効果を検証し、さらなる手立てを考えていく。
	【視点2】 9年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成・実施する	主体的に関わり合い、学びを深める児童生徒	③ 子ども達は、自分や友だちの良さを理解し、それを生かそうとしている。 授業や活動後の振り返りや帰りの会でのよいこと見つけなど、日々の生活や授業・行事において個々の児童が活躍できる場を意図的に設定し、よさやがんばりを具体的に認めることで、自己肯定感を高めることができた。個別支援計画を必要とする子どもには、保護者と共通理解しながら個に合った目標に向けて達成感をもたせるように努めた。	A		個々の児童が活躍できる場を意図的に設定して認め励ますことを継続していく。また、担任だけでなく、全職員で全児童のよさを認めていく意識をもち、定期的に子どもについての共通理解を行う。
			④ 子ども達は、自分の考えをもち、お互いの意見を聞きながら、自分たちで考え行動している。 自分たちがやりたいクラブ、必要な委員会を話し合いで決め、活動内容を考えることができた。また、学級会では話し合いの型を基に、個々の役割を意識しながら自分たちの力で話し合うことができた。さらに運動会や遠足などの学校行事では、競技や行き先を考え自分たちの力で学校行事を運営し遂行していくことができた。アンケートの回答でも肯定的な回答が、児童・保護者・職員ともに80%以上となっている。	A		異学年交流を充実させ、人間関係作りを支援していく。また、各学級でのグループ活動の際には、何のためにグループを作るのか、目的を子どもたちと共有することを大切にしていく。
	【視点3】 教職員の協働、児童生徒の交流	自分の良さを知り、生かそうとする児童生徒	⑤ 子ども達は、正しい生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん、メディアとのつき合い方、運動等）で生活している。 「健康パワーアップメダル」「メディアについて考える日」「小中一貫での取り組み・メディアについて考える日」を設定し、生活リズムの振り返りやメディアとの付き合い方等、意識を高めることができた。正しい生活リズムが習慣化しているものの、長時間メディアを使用している子どももいる。	B		「メディアについて考える日」を継続して実施する。メディアとの付き合い方を意識した生活リズムの確立を家庭へ啓発するとともに連携して取り組み、健康教育を推進していく。
			⑥ 子ども達は、交流を通してお互いの良さを知り、よりかかわりたいと考えている。 高学年は、水泳の合同授業やオンラインを利用した合同授業など他校と積極的に交流できている。また、児童生徒会便りを4校で共有するなど、児童会・生徒会同士の交流もできた。さらに支援学級でも、近隣の学校の児童と合同で校外教育活動や持久走記録会を行うことができた。しかし、低・中学年の児童の交流はなく、アンケート結果でも肯定的な回答は70%にとどまった。今後は、全学年が交流できるような工夫を考えていきたい	B		低学年の児童が他校の児童と交流することが少ないので、こども園との交流も含めて交流する機会をもっと増やしていく。また、オンラインを利用した交流活動も推進していく。
	【視点4】 地域との連携	自分たちで考え、自分たちでやってみようと行動する児童生徒	⑦ 子ども達は地域の財に触れ、その良さに気づき、地域や社会とのつながりを感じている。 生活科や社会科、総合的な学習の時間などでどの学年も地域を題材にした学習を行った。さらに、敬老会や子育てサロンに参加したり、地域の方に米作り・おかんじゃけなどの学習の講師となっていたいたりしたことで、子どもたちが地域のよさに気づき、地域を愛する気持ち高めることができた。アンケート結果でも、児童・保護者とも肯定的な回答を80%以上得られた。	A		学校応援団活動・南わら座談会で地域と学校で育てたい子ども像を共有したり、地域の財について情報交換したりする。地域学校協働推進委員と協力して地域の人材や教材を整理し一覧にまとめ、中学校区の4校で共有し、他学区の人材や教材も活用できるようにしていく。
			⑧ 児童生徒が安全に活動できるよう、施設・設備の維持・管理に努めている。 毎月施設設備の安全点検を実施し、児童が安全に活動できるよう、修繕が必要な場合は迅速に対応した。設備等の改善希望に沿った予算の執行が、安心安全な学校生活を支えることにつながった。	A		毎月の安全点検を確実に行うだけでなく、日常的に校内を見回り、市による修繕が必要な場合はしっかりと要望をあげ、安全に活動できるようにする。
	学校環境	自分の生活を見直し、健康管理をする児童生徒	⑨ 会議を削減したり、ICTを活用したりするなど、業務の改善に努めている。 会議の時間は1時間以内とし、ICTを活用しペーパーレスとし、集まって話し合う時間や準備時間を削減することができた。また、スクールサポートスタッフ等の人材を有効活用し業務を改善することができた。80%以上の職員が業務改善されていると感じている。	A		現在紙面で行っている面談の日程希望調査などもクラウドを利用して行い、調査用紙の回収や日程調整の手間を省いていく。教員が行うべき仕事とスクールサポートスタッフに任せられる仕事を明確にすることで、さらに業務改善を進めていく。
		【視点3】 教職員の協働、児童生徒の交流	⑩ 子ども達はさまざまな関わりを通して自他のよさに気づき、それを伸ばそうとしている。 アンケート結果では自分の良さに気づいている子の割合が75%、友だちの良さに気づいている子が87%となっている。自己肯定感の部分はわずかに80%に届いていないが、割合は年々上昇してきており、保護者や職員アンケートでは80%以上となっている。さまざまな活動で全ての子どもが活躍する場面を設定してきたことで、どの子も自分の頑張りが成長を実感することができている。また友だちと協力して活動することが得意な子が多いことから、友だちの長所や特性を理解して活動できている子が多いことがわかる。	A		全ての児童が自己肯定感や自己有用感を高め、他と協力しながら活動に取り組めるようにしていく。そのために、まだ自信がもてていない子、なかなか活躍することができていない子に注目し、授業や特別活動などで意図的に場を設定し、その子たちが自信をもって主体的に活躍できるように支援していく。
静岡型小中一貫教育における共通となる教育活動等の活用	グループ校の軸となる取組・活動		グループ校の評価指標	自己評価		
	輝く自分づくり～自己肯定感や自己有用感を高める取組～ 自分のよさを生かして、自分や周りのために行動できる児童生徒の育成		⑩ 子ども達はさまざまな関わりを通して自他のよさに気づき、それを伸ばそうとしている。 アンケート結果では自分の良さに気づいている子の割合が75%、友だちの良さに気づいている子が87%となっている。自己肯定感の部分はわずかに80%に届いていないが、割合は年々上昇してきており、保護者や職員アンケートでは80%以上となっている。さまざまな活動で全ての子どもが活躍する場面を設定してきたことで、どの子も自分の頑張りが成長を実感することができている。また友だちと協力して活動することが得意な子が多いことから、友だちの長所や特性を理解して活動できている子が多いことがわかる。	A	自ら学び、進んで学習に取り組んでいる子どもたちの姿がよく見られる。また、子どもたちがそのような姿になるよう取り組んできた教師の努力が感じられる。	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） 自分の考えを説明する場面を授業の中で意図的に設定していく。チャレンジ週間を継続し、家庭学習の定着をはかる。
	学力の状況 (全国学力・学習状況調査)	国語・算数共に苦手分野と得意分野の傾向が全国とほぼ同じ傾向。計算や語句などの基礎的な知識は身につけているが、応用問題や自分の考えを書いたり、推測や考察したりすることに課題がある。また、自分で計画を立て学習を進めることができる子が多く、授業にも家庭学習にも前向きに取り組んでいる子が多い。			朝の運動や遊びの機会が増えるといい。公園でテレビゲームをして遊んでいる子もよく見かける。体を動かして遊ぶ機会を増やしていきたい。	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） 運動が得意な子と苦手な子をわけて体育や朝活動を行い、苦手な子が主役になれるような活動を積極的に取り入れていく。
体力の状況 (新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査)	運動をしている子としていない子の運動能力の違いが大きい。体育の授業はもちろん、朝活動でも「走る」「投げる」などの能力向上を目指してきたが、運動が得意な子が体育でも朝活動でも意欲的に活動している状況で、差は開いてしまっている。全国平均と比べると、男女とも握力・上体起こしの得点が低い。また女子は長座体前屈や反復横跳びの得点も低い。ソフトボール投げや立ち幅跳びの得点が高い。全校児童が参加でき、楽しんで運動能力を向上できるような取り組みを来年度以降も続けていきたい。			子どもたちの様子を見てみると、いじめなどの問題はほとんどないのではないかと感じる。教師は子どもたちのことを理解し認めているつもりだが、そう感じていない児童も一定数いる。全員がそう感じられるようにしていきたい。	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） 「いじめ防止基本方針」を職員、児童、保護者に周知する。子どもの気になる表れについては、全職員で共通理解し、未然防止、早期対応に努める。	
生徒指導の状況 (学校いじめ防止基本方針)	毎週の職員打ち合わせで情報を共有することで子どもの様子に注視し、子どもの悩みやいじめの早期発見に取り組んでいる。また、いじめについての全校道徳を実施し、いじめを防ぐためにはどのように学校生活を過ごせばいいか子ども達に考えさせた。さらに、いじめや問題行動の対応について職員で研修を行い、問題が発生した場合にはすぐに連絡を取り合い、チームで素早く対応する体制を確認している。					

